

令和３年度 第２回飛騨市総合政策審議会 議事録

【日 時】 令和３年 10 月 28 日（木） 13 時 00 分～16 時 30 分

【場 所】 飛騨市役所 本庁舎 3 階 協議会室

【出席委員】 18 名中 13 名

【執行部等】 都竹市長 湯之下副市長 沖畑教育長 齋藤会計管理者 泉原総務部長
藤井市民福祉部長 横山環境水道部長 野村農林部長 畑上商工観光部長
森基盤整備部長 中畑消防長 佐藤病院管理室長 野村教育委員会事務局長
岡田議会事務局長 大庭河合振興事務所長 田ノ下宮川振興事務所長 森田神岡振興
事務所長 上畑財政課長
(18 名)

【事務局】 谷尻企画部長 三井総合政策課長 土田係長 井口主査 上手主任（5 名）

【傍 聴 者】 2 名

【会 次 第】 1. 開会

2. 市長挨拶

3. 会長挨拶

4. 協議事項

①令和４年度の施策（案）について

… 資料①

②自由討議

5. その他

今後のスケジュール

… 資料②

6. 閉会

【議事内容】

1. 開会【谷尻企画部長】

令和３年度第２回飛騨市総合政策審議会を開催する。

本日は５名がご都合により欠席であるが、委員 18 名中、過半数の出席により、飛騨市総合政策審議会設置条例第 6 条の規定により定足数に達していることを報告する。

2. 市長挨拶【都竹市長】

今年度第 2 回目の総合政策審議会は議会の協議会室を使用している。普段は議会の審議に使う部屋であり、今日は市民議会だと思って会議を開かせていただく。

前回 8 月 4 日の審議会に引き続き、2 回目の開催であるが、現在市役所内では政策協議を行っている。多くの自治体は翌年度の政策を作る際、今の時期から予算の要求をし、財政課の協議査定に入る頃で市長査定は 12 月末頃になる。しかしこのプロセスでは政策の具体的な詰めができず、しっかりとした議論ができないため、飛騨市では 10 月から政策協議として、先に来年実施する政策を具体的に議論

し、その後予算の枠の中でいくら配分ができるかを決めている。

かなり突っ込んだ議論をしており、このタイミングでの総合政策審議会は大変意味がある。前回の8月は、政策協議の大きな方向性の中で、皆様方の問題意識を出していただいた。今回は具体的に政策協議をしている段階で、もう一回皆様方から問題意識やご提案などをいただき、それを反映させていただく。2ヶ月後に3回目の審議会があるが、その時はほぼ政策の形ができ上がっているため、来年度の飛騨市の政策や事業の素案をお示しさせていただく。最終的にそれが予算案となり、議会に提案され、承認されたものを3月に皆様方に再度ご報告をする流れとなっている。

政策協議の中では総合政策審議会が出た意見の確認を必ず入れており、各委員の皆様から出た意見が予算の中に反映されているかを確認しながら進めている。すでにやっているものや明らかに困難なものなどもあるが、ここで出された意見は来年度事業に反映されていく可能性が極めて高い。そうした全体の流れの中の位置付け、そして我々のこうした政策協議における各委員の皆様方のご意見の扱いを念頭に置いていただきながら、本日の議論を進めていただきたい。

本日は報告事項が少なく、今議論をしている政策の概要についてご説明させていただいた後は自由討議となるので、それぞれのご専門の分野、ご担当の分野、さらにはそれを超えた生活者としての視点の中で忌憚のないご意見を賜りたい。

3. 会長挨拶【会長】

令和3年度第2回飛騨市総合政策審議会ということで、私もこの部屋に入った瞬間市民議会みたいだと感じた。もともとそういった位置付けとして、市民の方から、各団体の代表者の立場として、さらに一市民としてのご意見を忌憚なくいただく会であるので、本日も皆さんから貴重なご意見をいただきたい。

10月に緊急事態宣言が解除となり、だんだんと以前の日常が戻ってきている雰囲気もあるが、なかなか慎重な方が多く、元に戻るとまではいかないが、これから新しい生活様式としていろんなこと試していきながら、やるべきことを着実にやっていくことが非常に求められているような状況になっていると思っている。

こうした中で、ぜひ普段の生活や仕事の中から気づいたことをお聞かせいただきたいと思います。

4. 協議事項

司会【会長】

【会長】 協議事項①令和4年度の施策案について、事務局の説明を求める。

【土田係長】 協議事項①について説明。(資料①)

【会長】 協議事項①について、ご意見ご質問をいただきたい。

【会長】 厚生労働省が高齢者福祉施設のBCPの義務化をしている。3年間の猶予の間に、高齢者福祉施設全てにBCPを作成するよう呼びかけられている。ただ、最終的に自治体がどういった形でサポートしながらBCPを作っていけるか県でも委員会を作っ

て検討している。私もその中で、水害時に確実な避難をするために必要なことを考えており、そのあたり市は現在どんな状況か教えていただきたい。

【藤井部長】 高齢者福祉施設の水害時避難については、県からの指導もあって災害時の避難計画をそれぞれ作っている。それぞれの施設で作っておられるので、それが適用されるのか確認がとれていないが、不足するところがあれば市の方からも指導をさせていただき、よりよいものにしていかなければいけないと思っている。

【会長】 計画もだが、厚労省からは実際の避難訓練と職員研修といったマネジメントをまわすところまで必要となっている。避難計画はおそらく作られていると思うが、実効性を担保するような形まで必要となっているので、ぜひそのあたりご検討いただきたい。

【土田係長】 少しだけ補足させていただく。基本的には市内の大きな介護施設の中で垂直避難を現在は検討しているが、神岡の施設だけが水平避難を検討する必要がある。下呂の事例がまさにそれであり、その話を直接聞き、実際にどう避難をするのか、水平だけではなく垂直の場合入所者すべてを2階へどうやってあげるのか、下呂の事例を参考にしながら検討するということは担当の方で考えているとのことであった。

【J 委員】 深洞湿原と北ノ俣について保全活用方針の検討とあるが、何をどこまで検討するのか教えていただきたい。

【横山部長】 深洞湿原については、現在木道等の施設は整備されているが、国有林内にあることでアクセスが限定されている。過去にはツアーを造成して入っていただくこともしていたが現在はしていない。深洞へのアクセス、中へ入る仕組みづくりを地域の方々の意見も聞きながら検討していく。また北ノ俣については、登山道や避難小屋などがあるが整備が少し滞っており、荒れているところがあることは承知している。現在は有償ボランティアに助けていただき補修をしているが、今後どのような形で整備していくのかの方向性を、令和4年度に地域の方々の意見を聞きながら検討していきたい。

【J 委員】 深洞は施錠してあり入れない状況、北ノ俣は木道も傷んでおり、避難小屋もつぶれているが、水は確保されていた。ぜひここを活用して、飛騨市の一つのアピールとしていただきたい。

【C 委員】 障がい者のグループホームが和光園の跡地に建てられるとのことで、その他には吉城福祉会の憩いの家や、すまいるといった民間の障がい者を雇用する施設があるが、そういった施設への支援を今後も続けていただきたい。

電源が常時必要な重度障がい者への非常用電源装置等の購入支援について、発電機も機械であるため、例えば月に1回程度試運転するよう指導しておけば、実際に使用することになった時の練習や故障の確認にもなるのでご検討いただきたい。

- 【藤井部長】 障がい者支援の各種施設については、現在多くの民間事業者に参加いただいております、そういったところへ支援をしてきた。引き続き支援を継続していきたい。
- 非常用電源の話だが、岐阜県で事業経費の2分の1を補助する制度が令和3年度に事業化され、それを活用しながら市として購入の支援を計画している。提案いただいた購入者へのフォローも市として行っていきたい。
- 【I 委員】 担い手農家の所得向上と農地保全の一体的な検討という項目があるが、具体的にどのようなことを考えているのか教えていただきたい。
- 【堀之上課長】 今回米の概算金が非常に下がったこともあり、何とか担い手農家の所得向上につながる方策が検討できないか考えているところ。
- また農地保全に関しては、土地利用型作物や施設栽培についてもできるだけ多くの農地を維持していただきながら、所得向上につなげる方法を考えていきたいと思っている。
- 【I 委員】 担い手農家は具体的に言うと、稲作を中心にした農業ということか。
- 【堀之上課長】 稲作農家も含めてすべての担い手農業者の方々を考えている。
- 【F 委員】 文化部活動における地域部活動化の先行試験実施とあるが、令和5年から検討する必要があると聞いた。具体的に飛騨市ではどのようなことを検討しているのか。
- 【沖畑教育長】 部活動全般の地域部活動化を進めていこうと考えているが、地域の受け皿となる子どもたちをしっかりと指導し、力を高めてくれる団体や組織づくりを現在検討している。
- 例えば今年度から話し合いを進めているのは美術部で、表現の指導だけではなく展示や鑑賞についてなど幅広いことが学べるのではないかと美術館関係者と協議しており、今年度から少しずつ美術館の活動にも参加することも考えている。同様に合唱部や吹奏楽部、文化部など一つ一つについて進め方を検討している。
- 【J 委員】 市内中学校、高等学校と飛騨高山大学（仮称）とのカリキュラム連携はとてもいい。このカリキュラム連携を実際に作る担当はどこになるのか。
- 【土田係長】 この大学については、飛騨市企画部の中に大学設置支援室を設けており、各部局から担当として兼任で入っている。この部局で学校教育課と連携しながら取り組みを進めていきたいと思っており、現在大学の設置者である大学設立基金の井上代表理事に市内の中高の学校をすべて回っていただいている。生徒や先生とお話いただきながら、飛騨市に大学ができることに対する子どもたちの思いや、地元地域に対する思いを現在ヒアリングしている。これを11月12月あたりで一度取りまとめ、次年度何ができるかを考えていきたいと思っている。大学ができていくというプロセスもしっかり子どもたちに見ていただきながら、連携をしてやっていくことを検討していきたい。

- 【J 委員】 自分の町に大学ができることはとても素晴らしいことであり、中学生や高校生がそこで専門的なことを学べることは本当に夢がある。ただ、小中の先生や学校教育課の職員に負担が大きくならないよう配慮をお願いしたい。
- 【H 委員】 空き家で隣に誰もいなくて心配だという声が非常に多くなっており、うまく活用していただきたい。先日飲食店を対象とした魅せる料理講座が行われ、飲食店の方は勉強しに来たが宿泊業者の方があまりみえなかったと聞いている。観光としては宿泊して、この飛騨市にいかにお金を落としてくれるかが大前提となってくるので、宿泊業者の方にもいい食事を出してもらえようなフォローアップをお願いしたい。また、飛騨市に移住した方が空き家を活用して飲食店を開いていくことで、新たなブランディングもできると思うのでそちらのフォローもお願いしたい。
- 【谷尻部長】 飛騨市では住むとこネットという空き家紹介サイトを設けている。その中で今一番問題なのは、所有者の多くの方が売買を望んでいるのに対し、住みたい人は賃貸を望んでいるため、賃貸用の空き家の数が少ない状況にあるということ。売却を賃貸に切り換えていただけるような動機づけや仕組みを現在検討している。
- 【B 委員】 不作付地の作付再開を促す交付金制度の創設とあるが、高齢化が原因で作付けができなくなり、放棄したくはないがせざるをえない人が多い。それに対してどういった交付金でどのように支援していくのか伺いたい。
- 【堀之上課長】 この不作付地という言葉であるが、作物が作られなくなってから2年くらいの農地を指している。その段階であればまだ農地戻りしやすいため、遊休農地化が進む前の段階で手を打つための政策である。そういった農地を自己保全管理から、再び作付をした場合に、補助金を交付しようという制度である。
- 【会長】 先ほどの空き家の件について、先日郡上八幡の「チームまちや」の方と少し話をする機会があった。この団体が間に入って空き家を所有者から借り、リフォームをして賃貸で貸す形で空き家の活用を行っている。上手く回っていたが、しばらく住むと本当に自分が住みたいところに移りたいと、そこから抜けていく事象が発生し、次がなかなか入ってこないという新たな課題がでてきたと伺っている。参考までに共有させていただく。
- 【C 委員】 河川の危機管理型水位計の追加場所の検討とあるが、現在飛騨市にもいくつか水位計がついており、パソコンやスマートフォンで、専用のサイトを見ることで水位わかる。機械を扱える人はいいが、そうでない方は直接水量を把握しにくいいため、橋の橋脚に危険水位の表示をしていただけないか要望しているがなかなか対応いただけていない。橋脚に色を付けておいて、例えば黄色まできたら避難、赤まできたらもうすぐ増水による事故が発生するといったような目印をつけていただきたい。

- 【泉原部長】 確かに橋脚にそういった目印があると一目で水位の上昇もわかるので、県土木にお願いするものについてはお願いしていきたい。今現在も作ってあるところがあると思うので確認して要望等をさせていただきたい。
- 【会長】 危機管理水位計は、川に近づくと危ないので、できるだけネット上で離れた状況の中で水位を確認するという形で進めている。洪水時に水防団・消防団の方が現地確認をしに行くことの危険性があるが、主なところはあったほうがいいのかとも思った。
- 【都竹市長】 水位計の件だが、表示があるとどうしても川へ人が見に行ってしまうので、あえてつけていないという面はある。現在の水位の危険レベルを把握しやすいという側面もあり、あってもいいとは思っているのでよく土木とも議論して検討していきたい。危機管理型水位計は県で付けてもらっているが、一機あたりそんなに高いものではない。現状これでだいたい終了という話になっているが、市の方で費用負担するので県で取り付けをお願いするといったことも含めて検討したい。
- 【H委員】 世界中で災害が増えている。各国々SDGsの環境に投資するか、災害インフラに投資するかとなると、人間の命優先で災害インフラにお金を投資している。そのため環境対策にお金が回らず、災害はますます増えていくことは確実であるが、この流れを止めることは不可能だと思われる。飛騨市としては環境と災害の対策についてどのように考えているかお聞かせいただきたい。
- 【都竹市長】 よくその議論を市役所で協議しており、例えばCO2削減のための様々な施策を打って努力をして削減する分は、少し景気が良くなって自動車ラインの生産が少し増えるとすぐに飛んでしまう。つまり自治体レベルに落としてみた時のCO2削減への投資が、あまり効果に見合っていないという問題があると認識をしており、特に規模の小さい自治体レベルでは、地球環境全体の変化に手が及ぼしにくい。市民活動レベルでできることをやっていくことも必要だと思うが、それ以上のレベルで自治体で何か投資をしていくとなるとやはり安全を優先せざるを得ないと考えている。
- 【会長】 木曽川の流域委員をしているなかで、木曽川全体の動きとしては現在河川環境の整備の方向で進んでいる。一方で雨の降る量が増えており、河川整備をまた一段とやらなくてはいけない状況におそらく日本全体としてなっていく。市の役割の一つとしては、山を守っていくことだと思っており、CO2の削減にもつながるし、林業の生産も含めしっかりとやっていくことが、環境にも防災にも役立つと考えている。
- 【G委員】 事業承継の寄り添い型サポート体制の構築とあるが、どのようなことを考えているのか。加えて小規模事業承継等推進補助金の対象充実とはどのようなものか教えていただきたい。
- 【畑上部長】 事業承継について、会社の中で別の役員が社長に就任したり、個人事業主だと血縁関

係の方に受け継いでいくのが通常であるが、近年は血縁関係での事業承継も難しい場合もあり、別パターン of 事業承継についても支援していけるような形を検討している。寄り添い型というのは、事業承継をする上での問題点を事業者さんに聞いたうえで、そこに対して何か支援できるところがないかを併せて検討している。

【G 委員】 それは費用面の支援も兼ねているという理解でよろしいか。

【畑上部長】 費用面のことも含まれる。

【G 委員】 商工会議所もコロナ禍でかなり痛んでおり、飲食店からもかなりきついという意見を多数いただいている。そういった中で法人の事業承継は比較的うまくいっているが、個人事業主の事業承継がうまくいっておらず、後継者がいないため廃業するという意見が大半。商工会議所としては、外から人が来て事業承継をしてもらうのも一つの手だと思っており、東京のふるさと回帰支援センター岐阜県ブースの移住相談員に事業承継についてアプローチをしている。ただ商工会議所だけでは難しい部分があり、行政と一緒に知恵をいただきながら進めていきたい。そして、事業承継に対して手厚い支援をいただきたい。

神岡の鉱山資料館のリニューアルに向けた計画とあるが、神岡の方にとっては、鉱山を誇りに思っており後世にも残していきたいという強い思いがあるので、こちらの進捗状況をお聞かせいただきたい。

【森田所長】 鉱山資料館のリニューアルについては、来年度基本設計を行い、こういった施設整備ができるのか見極めたいと考えている。施設整備にあたっては、金額感を把握しながらその財源の目途も立てた上で、このリニューアルの整備に向かっていきたいと考えている。

【都竹市長】 事業承継の話は、子どもや親族を想定してやってきたが、最近移住者やUターンの方が事業承継する例が出てきて、今まであまり想定していなかったことが起こるようになっており、そこへ支援制度を乗せていきたいと考えている。愛着のある地元に帰ってきて、自分で何とかしたいと考えている若者をどう掘り起こすかということと、移住者をターゲットに引き継いでくれる方を募集するやり方もあると思っているので、来年度そのあたりを訴えかけていきたい。

鉱山資料館の話は、規模感と費用面をある程度概算するための概略を検討している。カミオカラボを整備した時は合併特例債を充てることをあらかじめ決めていたため、企業版ふるさと納税やふるさと納税でいかに合併特例債をあてる費用を小さくしていくかという議論だったが、今回はそういった借金ができるメニューがないので、必要な財源を全て調達してからかからないといけない。目標金額が集まる目途が立ったら進めていく流れになると思われるので、いつになるか今の段階では申し上げることはできない。三井金属 150 周年という記念すべき年が近づいていることは重々承知し

ているが、あとはお金次第であるため、様々なところへのお声がけをぜひ商工会議所でもお力添えいただきたい。

【D委員】 鉾山の資料館をリニューアルするということだが、41号線から神岡鉾山に入っていく橋のところが一番観光客などが通りすぎる場所で、飛騨市の玄関口みたいなところだと思うので、何か施設など整備できればよいのではないかなと思う。もちろん、鉾山資料館のリニューアルや江馬館も含め計画していただき、整備するときにはそのようなこともやっていただけるとありがたい。

【都竹市長】 鉾山前駅の端のところは確かに玄関口で、しかもガッタンゴーの終点のところで大変なところだと思っている。昨年、神岡若い方々中心にまちづくりのビジョンをまとめていただき、その中で道の駅・カミオカラボから神岡城・鉾山資料館あたりの一帯がクローズアップされており、加えて船津の町あたりを中心に、手を入れてはどうかとご提言をいただいている。いずれ将来的にあのエリアも何かできるといいなと思うが、今はカミオカラボから神岡城周辺あたりを中心にまず手を入れていく方向性で進めていきたいと考えているのでご理解いただきたい。また、鉾山前駅のところは防災トンネルの入口になるため、おそらく姿が少し変わってくる。その辺も見極めた上でまた検討したい。

～ 休憩 ～

【会長】 会議を再開し、ここで委員の皆様から市に取り組んでほしい分野、事業、課題など、普段の生活でお困りのことも含め、お一人ずつご意見を頂戴したい。

【A委員】 SAVE THE CAT HIDAについて、すでに寄付金を集め出して約2ヶ月となるが、どの程度集まっているのかと実際にこの活動がすでに動いているかなど、進捗状況を教えていただきたい。

また、体質や病気の関係でマスクができない方が少数おり、県がそういった人向けのデザインを公開している。高山市の学校でもそういった意思表示のプレートを作成し、市役所においてもらって無料で配布している。飛騨市でも同様のことをやる計画があるか。ないなら一緒にやったらどうか。

【B委員】 今緊急事態宣言がようやく解除になったが、年末へ向かって忘年会シーズンになってくる。飛騨市内の飲食店では、時間制限や人数制限等が実施されるのかお聞きしたい。また、公民館等を使用した時の人数制限がいつ頃にどういう具合で解除されるのかお聞きしたい。

河合町内のだいたいの集会所が昭和58年頃に作られている。その建物の耐用年数が来ており、ほとんどが取り壊しを検討する時期にきている。中には、耐震すれば持ちこたえそうな施設もあるが、各組や地区で建物を保有しており、家の軒数も減ってい

るので今後の維持費等も考えると1軒当たりの工事に対する負担が大きく、人数の少ない地区では大変難しい。市の方で取り壊しに対する補助をみていただけると大変ありがたい。

【C委員】 今年8月の雨で川東線右岸の元坂下小学校より上流の岩盤から落石があり、現在も通行止めになっている。あの道は水田の水量確認や鮎の稚魚放流などで使われる必要な市道。来年の春から夏にかけて岩盤の箇所を調査をしていただき、吹きつけ程度で済むのか検討していただきたい。

宮川町の水道メーターについて、検針をしている人から、ボックスの中に水が溜まっているとメーターが見えず、検針がしにくいという話を聞いた。一部の地域ではデジタル式の水道メーターになっており、数年前にメーターの更新があった時、自分の地域もデジタルのメーターになるかと思ったら今までの機器と同じものだった。振興事務所も水が溜まると見えなくなることは分かっており、雨が降っても中に水が入らないよう対策していただけたが、将来的にはデジタルのメーターにしてもらえないか。

【D委員】 神岡町の消雪について、令和4年度の整備に向けて概略設計をしているとのことだが、今後の具体的なスケジュールがわかれば教えていただきたい。

高齢者にやさしいITの利活用ということで、住民票等の自動交付化と、DX推進計画の作成についても教えていただきたい。

また、神岡でも空き家が多く今後も増加していくと思われる。住むとこネットの空き家物件に登録してもらい空き家の流動化やデータベース化を促すための推奨金等を創設いただけるとよいのではないか。

【E委員】 転勤で飛騨市にきたお母さんに子育てについて聞いたが、身内以外でも子供の預け先には困らず、保育園にも問題なく入れるし、保育の内容にも満足しているといったことでマイナスの意見がほとんどなかった。また、中学生と赤ちゃんがふれあったり、保育園児と高校生が交流することが、参加した子供や親からも良い経験だったと評判だったので、今後も継続していただきたい。

次に坂巻公園について、冬になるとトイレが閉鎖されて困るという意見があった。また閉鎖の期間が、秋から暖くなるまでと長過ぎるという意見もあったので見直しをお願いしたい。また、公園内に荒れている箇所があるので綺麗に整備していただきたい。加えて飛騨市の公園の遊具の点検、危険な場所などを定期的にチェックしてほしい。さらに、スケートボード等を駐車場でやっている子供がいて、禁止の張り紙をしたがなかなかやめず困っていると相談があった。安全に遊べる場所などを作っていただけるとありがたい。

流葉スキー場のリフト券の交換窓口が第1ゲレンデ一つしかなく混雑しており、駐車場の関係でも不便だったため、窓口を第2ゲレンデなどに増やしていただくか、引き換えが必要ないシーズン券などに変更してもらい配布していただけないか。

看護師不足医療者不足対策について、医療現場では高齢者や認知症の患者が多く、見守りに時間がかかっている状況であり、日中のリズムをつけるために、看護師がレクレーションなどを行っている。市民の方などで患者の話を聞いてくれる人がいると助かる。

【F委員】 最近スタッフを増やしたくハローワークに求人を出したが、なかなか応募がなかった。移住系サイトに掲載したら応募が多く、ある程度求人情報を集約してあり選べる状況があると、飛騨で働こうと思う人が増えると感じた。企業ステーションHIDAなどを活用し、もう少し見やすくわかりやすい仕組みが作れないか。

また、移住コンシェルジュとして移住相談を受けている中で、まだ働き盛りの方が多く、いい仕事と賃貸物件の2つが決まれば、移住してもいいと考えている方が増えていると感じている。移住サイトのリニューアルを計画しているとのことで、仕事や賃貸物件の情報集約されたものがあるといい。加えて福祉や子育て支援の情報や小学校の写真等の掲載も検討いただきたい。

【G委員】 11月29日に東大の研究施設が完成する。会議所としてハイパーカミオカンデとカミオカラボのPRと合わせて総合的にPRさせていただきたいと思っているので、行政の方と力を合わせてPRをさせていただきたい。またハイパーカミオカンデ計画推進期成同盟会も大いに活用させていただきたいと思っている。

神岡商工会議所の中に無料職業紹介所があるが、そこが運営ができない段階に来ている。件数は年間わずかではあるが困っている方がおり、担当者の家まで相談に行かれている。会議所としても続けていきたいがうまく継承できていない。行政と一緒に考えながらやらせていただきたいと思っている。

【H委員】 町並みサインの統一化と電子地図の活用についてお話しさせていただく。数年前に古川の町並みに立つ案内のサインが統一され、非常にすっきりした町並みになった。しかし、観光客の一部の若者はスマホで地図を検索しており、年配の方はアナログマップの活用が主流だと思われる。観光協会では、観光客の滞在時間を伸ばすことをテーマにしており、誰もが簡単に目的地を検索できて、古い町並み周辺だけでなく郊外にも案内サインを設置し、その時点から情報入手できるような電子マップを構築できるとよいのではないか。

以前市長から飛騨市観光協会国府支部と思って、近隣市町村の観光資源を有効活用しなさいとご挨拶いただき、私も飛騨市の資源だけではなく、広域観光振興による活性化が必要だと考えている。観光協会として滞在時間延長と外貨稼ぎをするべく努力をしているなかで、イベント等の集客に頼らず地域を稼がせ、そして自ら稼ぐ観光協会にしていきたいと思っているので、行政からもアドバイス等いただけるとありがたい。

最後にお金の話になるが、国がインフラ投資を進めており借金増えている。今後も国

がお金を吸って分配政策をやっていくと思っている。すると、円安・インフレになって、エネルギー価格も高くなっていき、貧富の差が拡大していく気がしているので、ぜひ飛騨市の税金も無駄遣いなくうまくやっていただきたいと思っている。

【I 委員】 農業の組織はたくさん種類がある。今日は出荷組合として呼んでいただいているが、2年間の任期の後は別のいろんな組織をこの場に呼んでいただき、皆さんとお話ができる機会を設けていただきたい。

現在、組合員数が高齢とともに減少していることを危惧しており、農業を職業にするハードルが高いのか新しい人がなかなか入ってこないのが現状。トマト研修所ができた関係で、若い方が飛騨市に住みながら農業をやっており本当にありがたい。私たちは今農薬と肥料の削減に取り組みながら、安心安全な食べ物を消費者にお届けすることで魅力ある農業を目指してやっている。今までも飛騨市からはたくさんのご支援をいただきなんとかやっている状況であるが、これからも何とか今まで以上のご指導、ご支援をお願いしたい。

今この古川町内で基盤整備が計画されていると思うが、今の進捗状況をお聞かせいただきたい。野菜を作っている方の圃場も区域に入ってくると思うので、移動する必要があるのなら移動に対する補償など計画があればお聞きしたい。

【J 委員】 まずもってタブレットを小中学生全生徒につけていただきお礼申し上げる。学校関係の会議に色々参加している中で、飛騨市学園構想が飛騨市民にあまり伝わっていないように感じている。インターネットに掲載しても興味のない人は見ないので、市内8校の取り組みがわかるようなものを回覧板で周知をお願いしたい。小学校教員採用試験の倍率が年々下がっており、職員の資質に関わってくる。個人的には明るく元気の先生に習うことで、先生になりたいと思ってくれる子どもが増えてくると思っている。市としても、魅力ある個性的な先生の育成も考えた教育委員会の指導のあり方について考えていただけるとありがたい。

各ホームルームにエアコンをつけていただき本当にありがたい。しかし特別教室にはまだエアコンがついておらず、音楽室や理科室など暑くなりやすい教室が存在する。多くの予算がかかることは重々承知しているが、各校の校長にどうしても必要な教室に絞って需要をヒアリングし、ご考慮いただけるとありがたい。

家庭教育が少しないがしろにされていると感じている。就学前の子どもをお持ちの保護者を対象に、教育長や校長先生が教育現場での困っている声を話してもらい、家庭教育の大切さなどを、親の教育という点で保育園との連携取りながら実施していただきたい。

神岡にグリーンルームを設置することだが、退職した職員をうまく活用いただくことで、子どもたちや先生方のためにも繋がると思うので検討いただきたい。

【K 委員】 古川西小学校でドローンプロジェクト担当の山崎さんに協力いただきドローン撮影

を実施した。子どもたちも興味を持ち、親の方の評価も高かった。学校だけではなく、保育園などでも行事に参加できない親もいるので、活用して役立てて欲しい。市内の公園について、公園自体はいろんなところにあるが、自由にボール遊びができるところがなかなか見当たらない。例えば杉崎グラウンドといった大きいところを曜日限定で無料開放みたいなことがあるといい。学校のグラウンドもクラブなどがいない時は使用してもよいと話を聞いたので使用させていただいているが、そういった情報を知らない人もいるので、ぜひ自由にボール遊びができる場所を作っていただきたい。コロナの流行初期に、国で施設の道具の支援するという話があり、当時は道具などが手に入らなかったり、感染対策の知識が少ない中で、施設内改修をしたが、今なら必要な対策が分かるので、補助していただけるとありがたい。

【L 委員】 飛騨市金融協会の立場としては、今国内産木材も高騰している中で、住宅を建てられる方、リフォームされる方は、相談に乗らせていただくので、各金融機関へ来ていただきたいと思っている。

1 俵あたり米価が 2000 円下がり、緊急の特別融資として利子助成を 3 市 1 村からいただけることになり感謝申し上げる。ただ現在なかなか営農組合などが農作業を受託できない理由の一つに、米価も安くなることも確かだが、維持がしにくい小さい面積の農地での作業効率が悪いことがある。個人的には荒廃していかないように維持していくためには、本来地権者の方が責任をもってお金を出して、営農組合にお願いするといったことを、意識付けさせていくことが必要だと考えている。市でお金を出していただくことは確かに嬉しい部分ではあるが、地権者が自己負担してでも農地を守っていくということを意識付けさせていくような取り組みをぜひご検討いただきたい。

【会長】 市長からご意見を伺う。

【都竹市長】 A 委員の SAVE THE CAT HIDA の話は後程企画部長から状況を説明いただくが、マスクを着用できない方への表示カードについて、あまり問題になっている話は聞かないが、そういった方の肩身が狭くならないようなことを何か検討したい。

B 委員の飲食店の時間制限や人数制限の話だが、飛騨市として人数制限などはかけていない。県からは概ね 4 人で長時間は避けるよう話がでているが、市として積極的に市民の方には伝えていない。これは飛騨市として飲食店での感染対策指導など感染対策の徹底を図っていることと、ワクチンの接種率が県内で七宗町に続いて 2 番目に多い中検査体制も拡充しているため、行動変容に頼るのではなく、感染対策の徹底を図りながら、社会経済をまわしていくという考えがある。同じく公民館も人数制限はかけていないはずで、感染対策として換気に気をつけてもらうために、CO₂メーターの補助も継続しており、CO₂の濃度を確認いただきながら、マスクを着用して行動してもらうことをどんどんやってほしいという考え方で市はいることをご理解いただきたい。それから、まちなか検査センターを市役所の駐車場に設けており、10 月 18

日から土日も含めて毎日開設となっている。岐阜県内で抗原定性検査を無料で受けられる体制整えているのは飛騨市だけであり、現在神岡での開設準備も進めている。これを大いに活用いただき、マスク会食で、感染対策を万全にしたうえで、会合をする姿を責任のある立場の方々が率先して見せることで市全体に波及していくと思っているので、ぜひ進めていただけるとありがたい。

それから各地区の集会施設の話だが、令和4年度に向け集落有施設の解体補助を検討しており、制度設計について具体的内容を議論しているところである。

C委員の市道川東線については後程基盤整備部長より後ほどお答えさせていただく。水道のメーターの話も後程環境水道部長からコメントしていただくが、ご指摘いただいた点も確かにあると思うのでまた検討させていただく。

D委員の来年度予定している神岡の消雪についても、後程基盤整備部長から説明させていただく。

D Xの件は、来年度計画をまとめる検討をしており、方向性としてまず大きな考え方を示すため、わかりやすいキャッチフレーズとして「いかなくてもいい市役所」というようなことを打ち出そうかと考えている。サービスもどんどん進化しているので、自前でシステム開発するより、既存で使えるものを活用していきたい。飛騨地域の場合さるばるコインがで、高齢者でも活用する人が増えてきている。そうすると、既存のものを活用することでほとんどシステム改修なくD Xの目的が実現できていくと思うので、多種多様なネット上のサービスを有効に活用していくことも考えていきたい。

空き家の利用の話だが、住むとこネットへの登録促進は固定資産税の納付書を送付する際にチラシを入れているが、賃貸での物件登録促進は、現在令和4年度に向けての協議の中で議論をしているところなのでしっかりと考えていきたい。

E委員のお話で、坂巻公園の冬のトイレの件については、閉鎖期間を短くするためにどうすればよいか検討させていただく。

荒れている箇所の整備や遊具の点検についても、十分な点検体制となっているかを確認し、不十分なところがあれば改めていく。

それからスケボーの話だが、9月の議会でもスケボーが練習できる場所が欲しいといったことが取り上げられた。河合町の羽根体育館に、スケボーができる施設として「S i m j a h s k a t e p a r k」があり、そこを使っていただくということを議会の答弁でもお答えした。ただ、もっと身近に手軽にできる場所をつくれなにかということで、現在アンケートでニーズ調査をしており、その結果を踏まえ、地域と共存共栄できるよう検討したい。

スキー場の割引券の配布については、スキー場を運営している指定管理者のn e w f l o wと相談させていただく。

看護師の立場からのお話で、資格が無くても専門職じゃなくても出来る仕事が現場にはたくさんあり、介護分野では、その部分をボランティアに担っていただいて負担を減らしたいと考えており、支え合いサポーターという形で対応している。看護の部分も拡充できることがないか検討していきたい。

F委員の求人の話だが、仕事を見つけるときにハローワーク以外の手段があまりなく、ハローワークの情報だけでは魅力が伝わりにくいと思っているため、商工課で市内企業の魅力発信を実施してきたが、その情報の集約については課題が残っていると感じている。移住についても、仕事から探し始めて、飛騨に決まったから移住するという方が増えている印象があり、求人募集をよりわかりやすく伝えることは大きなテーマであることから、新卒でない方々の積極的な採用を促進していくことを令和4年度に向けて考えたい。また、移住サイトのリニューアルにも関わってくることで、その部分についても併せて検討していきたい。

G委員のお話だが、ぜひハイパーカミオカンデ計画推進期成同盟会の活用も含め、カミオカラボや研究施設の総合的なPRを神岡商工会議所と連携してやっていけたらと思っているのでお願い申し上げる。

無料職業紹介所の話は、早速商工課から会議所の状況をお伺いさせていただき、その上で就職情報の発信について、もう一度よく検討したい。

H委員からのお話で、平均滞在時間を伸ばしていく上で、古川の街中だけでなく、郊外に幅を広げていくのは大事なことだと思っている。ただ街なかサインが無いエリアをどこまで広げるかだが、人の行動範囲を含め検討したい。面的に広げるということもあるが、ひだ森や街なかポケットミュージアムなど観光拠点を増やす取り組みを平行してやっていきたいと思っているのでまた協力いただきたい。アナログマップも複数種類作っており、無くすことは恐らくないので、その中にも落とし込んでいきたい。それから国府や奥飛騨との広域連携については極めて大事なところであると考えており、高山市と飛騨市という枠組みでやるより、観光協会同士で提携してやっていくことを進めていきたいと思っている。ぜひ観光協会と連携の媒介になっていただきたい。

まつり会館の運営も、コロナもあり難しい中でお願ひしているところではあるが、稼ぎ出せる要素もまだまだたくさんあると思っているので、ぜひ知恵を絞っていただきたい。

最後に円安原油高、市政全般の話のご意見をいただいたが、まず現在の原油高、原材料高の問題が深刻になってきたと思っている。まずはヒアリングにて状況把握をして支援策を検討する体制をとりたいと考えている。

I委員のお話で、市内の工場整備、土地改良の話については後程、担当課長から説明させていただく。

蔬菜出荷組合の組合員減少の話について、全体としての組合員数の減少は避けられない部分であると承知している。トマトの研修所がまずまずの成果を上げており、さらにほうれん草の研修所の設置も検討するなど、若い専業農家の方を増やしていきたいと思っているので、引き続き検討していきたい。

J委員から冒頭タブレットのお話があったが、私も今年全校の授業を見て、子どもたちが見事に活用されていてされていて大変驚いた。そのあと、飛騨神の学校評議員会があり、その時、高校でのタブレット利用があまり進んでいないと非常に強く感じて指摘をした。中高連携として特に神中と飛騨神はできており、タブレットを使った教育が中学でどのように行われているかを高校の先生に見てもらいたいと思っているので、県教委にも機会があれば話をしたい。

飛騨市学園構想のPRの話はご指摘の通りである。後程教育長からもコメントをいただく。

教員採用についても同様に後程教育長からコメントをいただく。

特別教室のエアコンの話はお金の問題に尽きるところであり、現在神小の大規模改修等も行っているため、問題は重々承知しているが、全体の予算の中でよく考えていきたい。

保護者向けの家庭教育の問題については地域の問題でもあるので、教育委員会ともよく相談し、何か手を打ちたいと思っている。

退職教員の活用の話はまた後程教育長からもコメントいただくが、退職された教員は人をまとめたり教えたりすることに関して高い能力を持っておられるので、大いに活躍いただきたいと思っている。ただ、意外と体が空いている方がおらず、退職教員探しにも苦勞している状況なので、退職前の意識づけも含め教育委員会でも考えていきたい。

K委員のお話でドローンについては、地域おこし協力隊の山崎君は非常にスキルがある方なので、ぜひたくさんの方に活用いただきたいと思っている。また学校教育の場でもドローンの活用をPTAの立場から学校に投げかけていただき、個別に議論していきたいと思っているのでよろしくお願い申し上げる。

ボール遊びができる場所については以前から懸案事項であり、周りを気にせず遊べる場所が昔に比べが少なくなっている所以、自由に遊べる広い場所はぜひ作りたいと思っている。千代の松原公園の活用についても、そういった部分も少し含んでおり、検討したいという意識を持っているということでご理解いただきたい。

介護の現場の、感染対策の資材等の購入支援については、去年の様々な補助で、一通り充足しているという認識でいたが、現場の声を再度調べ、引き続き感染対策は必要なことなので支援を検討したい。

L委員の米価の件については、市単位でできる対策がなかなか難しい。販路拡大がで

できれば高い値段で買ってもらえないかと考えたが、J Aに流通が一元化されていると売り方が非常に難しく、高く売ることに関しての機動力の弱さが、J A一括出荷の最大の問題点であると改めて認識した。結果利子補給に落ち着いているが、この部分はJ A、全農含めよく議論していく必要があり、今回の一つの反省点であると私はとらえている。

それから営農組合で受けることができない小さい圃場の扱いについては、私個人もこの制度に驚愕した。この仕組みでは農地は守れない。担い手農家への集約を考えると、土地を持つ者の責任としてお金を払って守るのは当然であると考えており、そういった意識喚起をしっかりとしていく必要があると思っている。賛否両論あるかと思うが、しっかり議論していきたい。今年来年で何か変わるという事ではないとは思いますが、何か大きな方向が付けられればと思っているのでご理解いただきたい。

【沖畑教育長】 J委員の飛騨市学園構想の広報については、今年力入れており、様々な会合での説明や、広報ひだにも毎月取り組み内容の紹介を連載させていただいているところであるが、今後カラーの写真を載せるなど広報の仕方も工夫していきたい。ご提案いただいたようなものもお配りできるよう検討していきたい。また令和4年度は3年間の取り組みをまとめたリーフレットを作成することも考えている。

魅力ある教師の育成については、それぞれの学校で十分努力していただいているところであり、今、特にICTの面では若い教師たちが大活躍している。子どもたちが主役となるような授業づくりに取り組んでいるので、見ていただいてまだ足りない部分があればご指摘いただきたい。

親への教育については、保小中の連携事業もあるので、保育園とも相談しながら検討したい。

退職した教員の活用について、今でも働いていただける方はほとんどの方をお願いしているので、引き続きご協力をお願いしたい。

K委員のドローンの活用について、今年度各学校において運動会の撮影や社会の授業などで大いに活用させていただいている。費用の面ことがあるので、盛大にはいかないかもしれないが今後も活用していく。

子どもたちの遊び場については、空いている時はグラウンドを使ってもらって良いが、子どもたちが町中で運動ができる場所を現在調査しており、ボール遊びやスケボーも含め全体の中で検討していきたい。

【谷尻部長】 A委員のSAVE THE CAT HIDAの寄付金額の件について、10月28日現在で約1500万円の寄付をいただいていると聞いている。また、ふるさと納税は12月だけで1年間の寄付額の約7割以上集まることも考えられるので、今後増えていくと予想している。

ドローンについてもお話があったが、10月23、24日に全国各地から9人の方が集ま

り、飛騨市をドローンで撮影していただき、それを3分の動画にまとめ審査するというコンテストを実施した。市内各地の普段見ることができないような景色がきれいに撮影されており、飛騨市のホームページ等に動画をアップしているのでぜひご覧いただきたい。

【横山部長】 C委員の水道メーターの電子化について、まず飛騨市内には直読式メーターと電子メーターが混在しており、雪の多い場所に電子メーターが設置されている。電子メーターは検針がしやすい反面非常に高額であり、直読式メーターの約5倍の価格差がある。また、直読式メーターを電子メーターにした場合、新たな配管工事が必要となり、その費用が自己負担となるため、以前宮川町の区長会に金額を試算して提示させていただいたところ、区長会としては電子式への変更については要望しないと伺っていた経緯もある。飛騨市全体としても当面は直読式メーターで可能な場所はそのまま継続していきたいと考えているのでご理解いただきたい。

【森部長】 C委員の市道川東線の法面の工事の対策については、令和4年度簡易吹きつけを行い通行できるようにさせていただく。

D委員の神岡町の消雪については、神岡のふれあいセンターに現在既設の井戸があり、その水を利用して、消雪の整備する路線の追加を検討している。令和3年度に路線の選定を行い、地元区と相談をしながら整備する路線を決めていきたいと考えている。

スケジュールとしては、令和4年度に概算工事費を算定し、令和5年度に設計を行い、令和6年度から事業の実施を想定している。

E委員の遊具の点検については、市で月2回公園のパトロールを行っており、毎年春には遊具の点検を専門業者に委託し、遊具の安全確認を実施している。現状でも安全に十分配慮してやっているのご安心いただきたい。

【堀之上課長】 I委員の土地改良の進捗状況については、玄の子地区の土地改良という形で進めており、現在工事業者が決定し11月頃から実際に工事が進む予定で、令和6年度あたりまでかかる計画となっている。また、杉崎地区でも土地改良の計画を進めており、令和4年度に詳細設計をする形で進む予定となっている。土地改良に伴うハウスの移転については、トマトのハウスをしている方はそのまま残る形で工事を進めている。アスパラのハウスについては移転をお願いしており、市で補助金を出しながら、ご協力いただいて実施していく。

L委員の担い手農家の所得向上については、借地料の見直しを現在考えている。また、実際に農地を貸し借りする場合は、個々で話し合いをしていただく必要があるが、ご指摘の通り、農業を継続していくことが難しいという方が増えてきているので、地権者に農地を守っていく責任を感じていただけるような意識啓発も進めていきたいと

思っている。

【会長】

本日も委員の皆様からたくさんのご意見いただき感謝申し上げます。

最後に私からも感想を述べさせていただく。

最近教育学部の学生で教員なりたくないと話す子が多い。志が高く、非常に思いを持った学生ほどそういったことを言っており、悩ましく思っていた。そんな中でこの飛騨市学園構想はすごく光だと思っており、この仕組みを県内に広げていくことが重要だと考えている。

それからもう一点、高校の学習指導要領が来年度から非常に大きく変わる。探求学習が始まるが、ここ3年間で県がモデル校を決めて実施してきたが、県の教育委員会も各校任せになっており、情報共有もされていない。高校の学習指導要領についてもなかなか県の教育委員会が方針を示さず、学校任せ教員任せになっており、来年度からの高校教育について心配している。そういった中で先ほど高校でのタブレット活用の話もあったが、何とか飛騨市として支えられる部分はぜひ支えていただき、この飛騨市学園構想の中で子供たちを健やかに育てるところをぜひ担っていただきたい。

6. その他

今後のスケジュールについて説明。（資料②）

7. 閉会【湯之下副市長】

委員の皆様には本日も長時間にわたり貴重なご意見をいただき感謝申し上げます。

日本全体が人口減少となっており、6、7年前になるが消滅可能性都市に飛騨市が入った。

各自治体様々な取り組みを実施している中、市長は飛騨市は人口減少先進地と明言され、課題解決をしていく中で、皆が楽しく心豊かに暮らせるまちを目指して様々なことに取り組んでいる。

本日の会議を拝聴し、様々な政策を打つ中で、まずは知っていただき、データを示しながら、納得していただくことが大切であると改めて認識した。

委員の皆様には今後とも、それぞれの立場で市に対して率直なご意見を頂戴したい。それでは本日の会議を閉会する。